

神奈川県

SDGs社会的インパクト評価実証事業（2020年度）

実証事業レポート（1）
＜Fujisawaサステイナブル・スマートタウン＞

2021年3月24日

ケイスリー株式会社

1. 実証事業の概要
 2. 背景・経緯
 3. 実施内容
 1. 全体
 2. 戦略策定① ～課題とビジョンの整理～
 3. 戦略策定② ～目標達成までの戦略(ロジックモデル)の策定～
 4. 実施体制の構築① ～ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発～
 5. 実施体制の構築② ～ヘルスケアサブWGとの戦略共有・協議～
 4. 成果
 5. 課題と今後について
- 参考. 用語リスト

1 実証事業の概要 (1/2)

| | |
|----------------|---|
| <p>背景</p> | <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市にある「Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（通称FSST）」は、参画企業や住民の協働で運営が行われている。街の運営や事業の実施においてはビジョン達成のためのガイドラインが設けられているが、コミュニティアケア事業など、目標の達成度を数値化することが難しい事業においては、本来めざすべき目標に紐づけて戦略的に事業を実施することが難しい状態であった。そこでSIMを用いて、コミュニティアケア事業のめざすべき方向性を再整理し、ビジョンと事業の接続を試みた。 本事業へは、2018度より継続的に関わっている。 |
| <p>実証事業の狙い</p> | <p>FSSTが掲げる「全ての世代が安心して暮らせるコミュニティが持続するまち」の具現化に向け、地域の中でのいきいきとした生活を支えるコミュニティアケア事業を対象に、基礎となる戦略策定と実施体制の構築を行った。</p> <pre> graph LR subgraph "今年度の実証事業" A[戦略策定] --> B[実施体制構築] end B --> C[目標達成に向けた取組みの実施・継続・評価] C --> D[全ての世代が安心して暮らせるコミュニティが持続するまち] </pre> |
| <p>実施体制</p> | <p>パナソニック株式会社と株式会社学研ココファンが中心的な実施主体となり、神奈川県とケイスリー株式会社がそれを支援をした。また、学研ココファンがリーダーを務めるヘルスケアサブワーキングのメンバー企業とも協議・連携し、実施体制の整備を行った。</p> <pre> graph LR subgraph "伴走支援" K1[神奈川県] K2[ケイスリー] end subgraph "取組主体" P[パナソニック] G[学研ココファン] end subgraph "FSST協議会" H[ヘルスケアサブWGメンバー企業] end K1 -- 伴走支援 --> P K2 -- 伴走支援 --> G P -- 協議・連携 --> H G -- 協議・連携 --> H </pre> |

1 実証事業の概要 (2/2)

| | |
|---------------|---|
| <p>実施内容</p> | <p>本実証事業は、「戦略策定」「実施体制の構築」の2段階に分けて実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>戦略策定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px;"> <p>主な 中身</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題とビジョンの整理 目標達成までの戦略(ロジックモデル)の策定 </div> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➔</div> <div style="text-align: center;"> <p>実施体制の構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 300px;"> <ul style="list-style-type: none"> ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発 ヘルスケアサブWGとの戦略共有および、実施体制構築に向けた協議 </div> </div> </div> <p style="text-align: right;">(詳細はp.7-22)</p> |
| <p>成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> コミュニティケア事業の目指すべき方向性と、「住民主体のまちづくりが重要であり、ネットワーク形成や主体性促進等の働きかけが必要」という最重要ポイントが明らかになった。 「企画/振り返りのためのチェックリスト」を作成し、企画づくりを練習するワークショップを開催。どのような工夫をすれば目標達成につながられるかが具体的になった。 ヘルスケアサブWGのメンバー企業と協議し、重要ポイントと事業の目指すべき方向性についての共通認識が形成された。また、その後も、協議・報告の場を毎月設けることが合意され、継続して協働するための場が設置された。 <p style="text-align: right;">(詳細はp.23)</p> |
| <p>課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は戦略策定や実施体制の構築を行ったが、今後は事業を実際に実施・評価し、継続して改善していくことが重要。 継続のためにも、担当者交代に対応できる仕組みづくりが必要。 今回策定した戦略に、さらに住民の声を反映させていくことが必要。 <p style="text-align: right;">(詳細はp.24)</p> |
| <p>今後について</p> | <p>今後の取り組みの方向性として、以下のアイデアが出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価指標および評価計画の策定と、コミュニティ全体に対する評価の実施 恒常的に目標達成を意識した事業を企画・実施・振り返りできる体制の構築と定着 本実証事業で策定した戦略への住民の声を反映、事業活動への住民の巻き込み <p style="text-align: right;">(詳細はp.24)</p> |

100年先もコミュニティが持続するまちに。 そのビジョンを、どのように事業で実現できるか。

藤沢市にあるFujisawaサスティナブル・スマートタウン（通称FSST）は、「100年ビジョン」を掲げ、その達成のためにガイドラインを設けている。まちに関わる事業は、そのガイドラインの下、参画企業と住民の協働で行われてきた。

しかし、サスティナブルなまちづくりの核となる事業であるコミュニティケア事業は、ビジョンの達成度を可視化することが難しく、加えて、新型コロナウイルスの感染拡大により交流事業ができなくなる中で、事業の向かうべき方向性が見えなくなっていた。そこで、本実証事業では、SIMによりコミュニティケア事業のめざすべき方向性を再整理すると共に、事業現場におとすための方法を検討した。

Fujisawa SST

生きるエネルギーが うまれる街。



- FSSTは、3年度にわたり、本事業の実証事業に参画した。今年度は3年度目に当たる。

2018年度

コミュニティアケア事業と産官学住による共創の街の成果指標の策定

2つのコミュニティアケア事業のロジックモデルと指標の策定、産官学住による共創の成熟度の指標を策定

- 各事業の事業目標とめざすべき方向性の明確化
- SDGs達成貢献への可能性の広がり
- 指標セットの作成

2019年度

コミュニティアケア事業と環境に配慮した暮らしの推進における成果の可視化と改善策の検討

2つの取り組みのロジックモデルの作成、成果指標の策定、データ収集・分析の実施

- SDGs達成に向けた各取り組みの成果や課題の明確化
- 今後に向けた改善策の検討・整理

2020年度

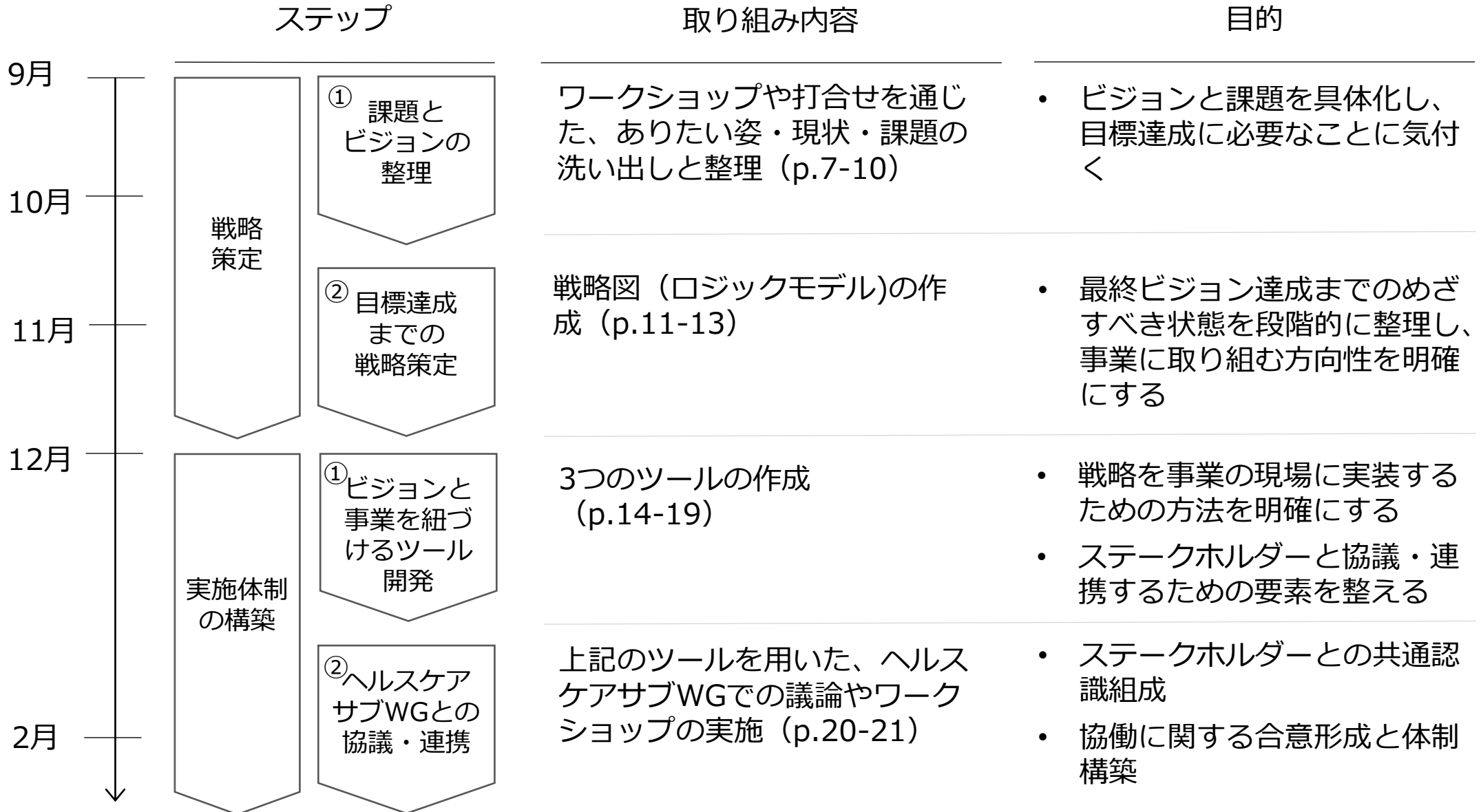
コミュニティアケア事業のめざすべき方向性の再整理、ビジョンと事業の接続

コミュニティアケア事業の戦略策定、実施体制の構築

- コミュニティアケア事業のめざすべき方向性の明確化
- ビジョンと事業をつなげるツールの開発
- ヘルスケアサブWG参画企業との共通認識の組成および、協議の継続実施機会の設置

3-1 実施内容：全体

- FSSTが掲げる「全ての世代が安心して暮らせるコミュニティが持続するまち」の具現化に向け、基礎となる戦略策定と実施体制の構築を行った。



3-2 実施内容：戦略策定① ～課題とビジョンの整理～

- ワークショップを行い、抽象度の高いビジョンを具体的なイメージとして言語化。併せて、ビジョンと現状のギャップを洗い出し、ギャップを超えてビジョンを達成するためのポイントを整理した。

戦略
策定

実施体制
の構築

| | |
|------|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">ビジョンと課題を具体化し、目標達成に必要なことに気付く |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none">オンラインワークショップ実施による「ありたい姿・現状・課題」の洗い出しと具体化洗い出した要素を整理し、ビジョンの大枠と重要なポイントをまとめる |
| 実施方法 | <ul style="list-style-type: none">Googleスライドを使用したオンラインワークショップ（1回）※p.9参照Zoomでのオンラインミーティング（1～2回）参加者：パナソニック1名、学研ココファン2名、神奈川県2名ファシリテーター：ケイスリー2名 |
| 結果 | <ul style="list-style-type: none">p.10のように、あるべき姿・現状・課題を洗い出し分類これを基に、p.11のようにビジョンの大枠とポイントを整理し、これまでの事業で見えていなかった点やめざすべき方向性が明らかになった |

3-2 実施内容：戦略策定①～課題とビジョンの整理～

参考：ワークショップで洗い出した要素

戦略策定

実施体制の構築

| | ① 困りごとを助け合う互助の関係 | ② 住み慣れて愛着がわく街 | ③ 新しい価値が生まれ続けるコミュニティ |
|--|--|--|--|
| [住民側] | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 住民同士が顔なじみで気軽に話せる 住民がお互いの困りごとを共有している 生活の困りごとを住民同士で解決しあっている | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 住民（や関係者）がコミュニティに関心をもつ、街の問題に主体的に取り組む 生きがい・思い出・受け継ぐものができる 住民がFSSTに住みやすいと感じている FSSTに住む・関わることにプレミアム感がある FSSTで働きたい・働きやすいと感 | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 住民同士や住民と関係者の多様な交流が活発に行われている 住民がかかわりながら、新しい企画や価値が生まれる |
| | [現状・課題] <ul style="list-style-type: none"> 表面的な話で終わってしまう 自然に仲間づくりができる仕組みがない (働く世代) 保育園や学校以外での交流がほぼない | [現状・課題] <ul style="list-style-type: none"> 街の本質的な現状を知らされていない ボランティアグループが少ない 働く人(スタッフ)の入れ替わりが激しい 住民の声を広く拾う仕組みがない | |
| | (ウイズ・コロナにかかわる課題) <ul style="list-style-type: none"> 感染症のリスク、対面イベントの開催不可、交流活動の制限 オンライン環境(高齢者のITスキル、慣れていない、サ高住シニアとの繋がるICTツールがない) | | |
| [運営側] きっかけづくり | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 普段接しない層とかかわる機会を提供している 住民同士が顔なじみになる機会を提供している | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> コミュニティについて知る機会、かかわる機会を提供している | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 新しいことに取り組む敷居が低く |
| | [具体的なアイデア] アフター・コロナ 何を 誰が 誰と どのように | | |
| | [具体的なアイデア] ウイズ・コロナ 何を 誰が 誰と どのように | | |
| [運営側] 恒常的なはたらきかけ・サービスの提供 | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 住民同士が互助をしやすくなるサービスが提供されている(マッチングサービス) プライバシーが守られる | [ありたい姿] <ul style="list-style-type: none"> 未来の住宅・未来の生活スタイルの提案 プライバシーが守られる FSSTらしさの発信 FSSTで働く機会、働きやすい仕組みの提供・発信 重介護予防がなされる サ高住の良いイメージが定着する | <ul style="list-style-type: none"> アイデアが実現化する仕組みがある 創造的な環境を維持している |
| | [具体的なアイデア] 何を 誰が 誰と どのように | | |
| <ul style="list-style-type: none"> インターネット環境の整備 マッチングサービス タウンポータルでの情報発信 | | | |

ワークショップで出た要素を、一覧表に整理。コミュニティケア事業の対象である住民の「ありたい姿」と「現状・課題」のギャップが明確になった。

ワークショップであがった住民の「ありたい姿」や「課題」を勘案すると、運営側の事業活動にも、さらに工夫が必要なことがみえてきた。

- 参考：整理したビジョンの大枠とポイント

戦略
策定

実施体制
の構築

ビジョン

全ての世代が安心して暮らせるコミュニティが持続するまちへ

“安心して暮らせるコミュニティ”とは…

困りごとを助け合う
互助の関係

“コミュニティが持続する”とは…

新しい価値が生まれ
続けるコミュニティ

共通して必要な要素…

住み慣れて愛着がわく街

ビジョンが意味
する具体的な
コミュニティの
形

ビジョン達成
のための
重要なポイント

- **FujisawaSST住民個人及びコミッティ(自治会)、働く人、周辺地域の住民等の自発的で多様な交流**をベースに上記3つの状態が生み出される
- FujisawaSST協議会(コミュニティケア事業に関わるワーキンググループ)、FujisawaSST マネジメント株式会社(TMO)は、そのサポートとして、上記3つのきっかけづくりや支えとなる仕組み・サービスの提供を行う

3-3 実施内容：戦略策定②～目標達成までの戦略(ロジックモデル)の策定～

- 整理したビジョンの大枠とポイントを基に、さらに細かくめざすべき状態がわかる戦略図を作成した。

戦略策定
実施体制の構築

| | |
|-----------|---|
| <p>目的</p> | <ul style="list-style-type: none"> 最終ビジョン達成までのめざすべき状態を段階的に整理し、事業に取り組む方向性を明確にする |
| <p>内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> 戦略図（ロジックモデル）の作成、ブラッシュアップ |
| <p>結果</p> | <ul style="list-style-type: none"> 何度もブラッシュアップをし、最終的にパナソニックや学研ココファンの担当者が自分の言葉で語れるような形で完成（詳細はp.13 参照） 戦略図作成の過程で、事業をバックカスティング思考で検討したり、具体的なアイデアに関する議論も行われた |



▲初版の戦略図に対して議論した時のもの
赤字やコメントが入っている



▲議論を基に修正したもの

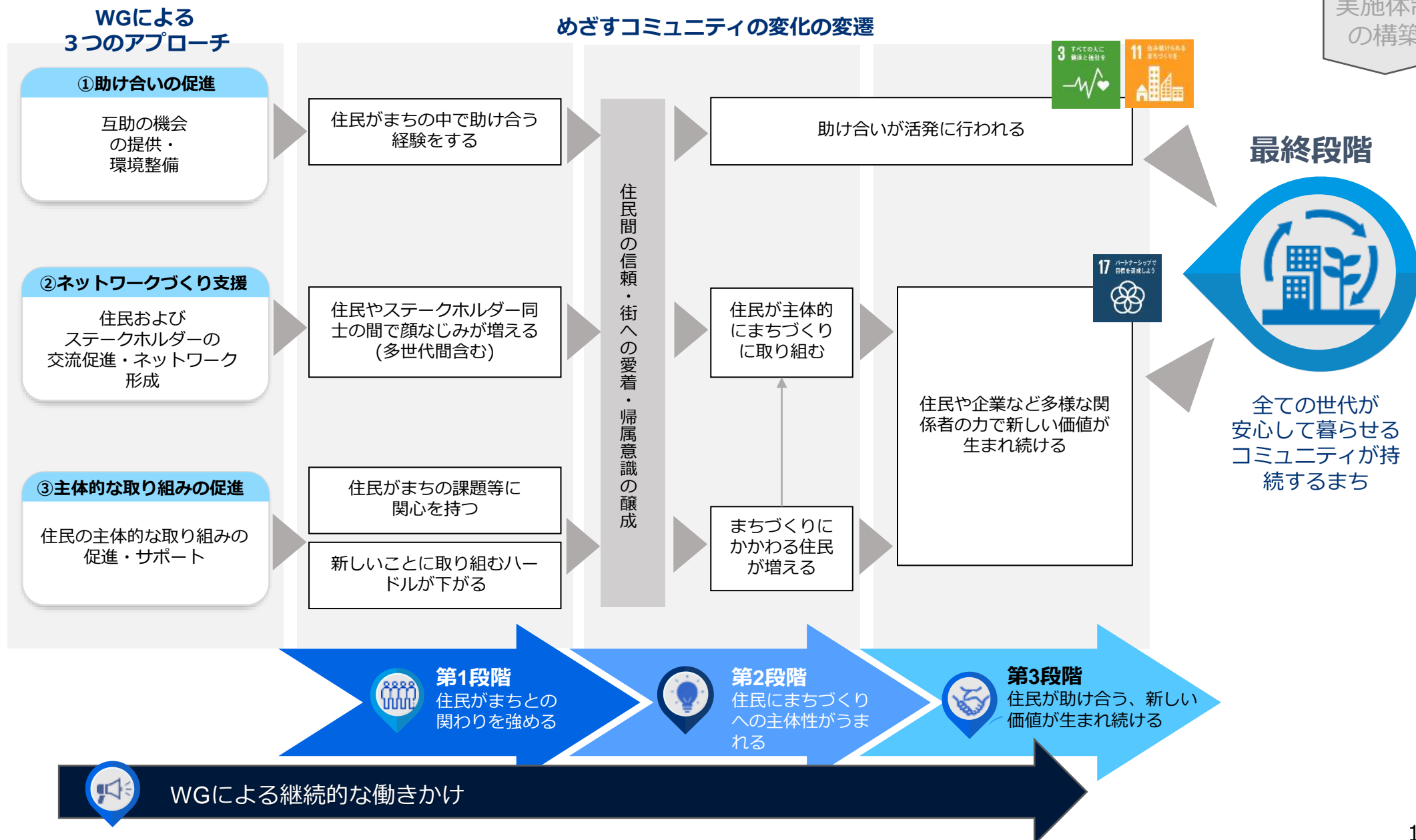


▲再度議論し、外部共有しやすい形に整理したもの

3-3 実施内容：戦略策定②～目標達成までの戦略(ロジックモデル)の策定～



- 下記は戦略図（ロジックモデル）の完成版。3つのアプローチによって3段階の住民の変化を経て、ビジョンを達成する図になっている。

戦略策定
実施体制の構築



3-3 実施内容：戦略策定②～目標達成までの戦略(ロジックモデル)の策定～

- 以下の解釈と理由で、SDGsとの関連付けをした。

| めざすべき状態 | 紐づけたSDGsゴール・ターゲット | ターゲット紐づけの解釈と理由 |
|-------------------------------------|--|---|
| <p>助け合いが活発に行われる</p> |  <ul style="list-style-type: none"> あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。(3) 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。(11.3) <p><SDGsアクションプラン2021～コロナ禍からの「よりよい復興」と新たな時代への社会変革～> 「優先課題①：あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」において共生社会の実現やコミュニティ参加について示されている。 (日本政府SDGs推進本部)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 助け合いがコミュニティ内で活発に行われることで、精神的、肉体的な健康が増進されることからSDGsゴール3に合致する。 本アウトカムでは全ての世代を包摂するために、コミュニティケアは住民の参加によって支えられる仕組みをつくることを目指していることから、SDGsゴール11のターゲット11.3に合致する。 また、日本政府によるSDGsアクションプランではあらゆる人々が活躍する社会も優先課題として掲げられており、世代を超えて助け合うことを目指すアウトカムは、共生社会の実現やコミュニティ参加に接合している。 |
| <p>住民や企業など多様な関係者の力で新しい価値が生まれ続ける</p> |  <ul style="list-style-type: none"> 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。(17.16) さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。(17.17) <p><SDGsアクションプラン2021～コロナ禍からの「よりよい復興」と新たな時代への社会変革～> 「重点事項II：よりよい復興に向けたビジネスとイノベーションを通じた成長戦略」が示されている。 (日本政府SDGs推進本部)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 住民と企業、学術機関等が連携し、それぞれの強みを生かしながら、暮らし起点で新しい技術やサービスを共創していくことを目指していることから、SDGsゴール17のターゲット17.6、17.17に合致する。 また、日本政府によるSDGsアクションプランの基本的な考え方として「あらゆる関係者が一体となって取り組んでいく必要がある」と示されており、イノベーションに重きが置かれている点において、本アウトカムは合致する。 |

戦略策定
実施体制の構築

3-4 実施内容：実施体制の構築①～ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発～

- 戦略を事業の現場に落とし、継続して運用する体制を築くために、3つのツールを作成した。

戦略
策定

実施体制
の構築

| ツール | 用途 | 使用者 | 作成のポイント |
|--|--|---|---|
| <p>1</p> <p>企画・振り返りの チェックリスト</p> <p>(p.16参照)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 企画時に、事業にどのような工夫をすればビジョン達成に繋がるかを明確にする 事業後に、ビジョン達成に対して有効な取り組みができたかを評価する | <ul style="list-style-type: none"> コミュニティケアを行う事業者 | <ul style="list-style-type: none"> チェック項目を全7つに集約し、活用しやすくした |
| <p>2</p> <p>推進プロセスの チェックリスト</p> <p>(p.19参照)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 実施体制を整備する際に、何をすればよいか分かるようにする ステークホルダーと協働する際のポイントがわかるようにする | <ul style="list-style-type: none"> 事業推進の取り纏め担当者 (パナソニック、学研ココファン) | <ul style="list-style-type: none"> コレクティブインパクトの知見を活用 |
| <p>3</p> <p>関係者共有用の ハンドブック</p> <p>(p.20参照)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーとの協議や担当者変更の際に、きちんとした情報共有や引継ぎが出来る状態にする | <ul style="list-style-type: none"> 事業推進の取り纏め担当者 (パナソニック、学研ココファン) | <ul style="list-style-type: none"> 事業者の文脈に合わせた文言や構成 |

3-4 実施内容：実施体制の構築①～ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発～

参考

企画/振り返りのチェックリスト（活用イメージは次ページ）

戦略
策定

実施体制
の構築

| | | | |
|------|--------------------------------------|-------|---------------|
| 目的 | ①助け合いの促進 / ②ネットワークづくり / ③主体的な取り組みの促進 | 種別 | イベント / 仕組みづくり |
| 対象 | | 協力・共催 | |
| 企画概要 | | | |

主目的を
選ぶ

✓ 選んだ目的のチェック項目が満たせるように、企画の中でどんな工夫ができるか考える

✓ 選んだ目的以外のチェック項目についても、太字の項目は満たせるように工夫する

実施後、振り返りをする

| 目的 | No | チェック項目 | 工夫の例 | どんな工夫ができるか | 実施後自己評価 (とてもよかった：◎、よかった：○ あまりよくなかった：△、工夫なし：-) |
|-----------------------------|----|------------------------------------|---|------------|---|
| ① 助け合いの 促進 | 1 | 住民が助け合う(サポートし合う)機会が提供されている | 借り物競争のようなゲームを入れる | | |
| | 2 | 助け合いに対してさらなるモチベーションが高まる工夫がされている | 助けられた人から感謝のフィードバックを伝えられるようにする(手紙など) | | |
| ② ネット ワーク づくり | 1 | 多様な層と関われる/新しい出会いがある場が提供されている | 児童とサ高住の住人、またはFSST外の地域の人と一緒に施設の周りにお花を植える | | |
| | 2 | 参加者同士が関係性を深められるような工夫がある | 参加者が名前と顔を覚えられるよう、名前を呼び合うゲームを冒頭にいれる | | |
| | 3 | 取り組みの後の、次の発展につながる工夫がされている | シリーズものにする。参加者に次の企画に入ってもらおう。 | | |
| ③ 主体的 な取 組みの 促進 | 1 | 住民が街の課題に関心を持ち、意見を表出できる機会が提供されている | コロナ下における課題とその対策について、住民サークルと意見交換する | | |
| | 2 | イベント等の企画や準備に、住民/住民団体が参画している | サークルに入っている住人に企画作りをしてもらい、講師も任せる | | |

3-4 実施内容：実施体制の構築①～ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発～

参考

企画/振り返りのチェックリストの活用イメージ

戦略
策定

実施体制
の構築

| | | | |
|------|--------------------------------------|-------|---------------|
| 目的 | ①助け合いの促進 / ②ネットワークづくり / ③主体的な取り組みの促進 | 種別 | イベント / 仕組みづくり |
| 対象 | FSSTの住民（誰でも） | 協力・共催 | 住民のヨガサークル |
| 企画概要 | コロナ下におうちでできるセルフケアのススメ：オンラインヨガ教室の実施 | | |

主目的を
選ぶ

- ✓ 選んだ目的のチェック項目が満たせるように、企画の中でどんな工夫ができるか考える
- ✓ 選んだ目的以外のチェック項目についても、太字の項目は満たせるように工夫する

実施後、振り返りをする

| 目的 | No | チェック項目 | 工夫の例 | どんな工夫ができるか | 実施後自己評価 (とてもよかった：◎、よかった：○ あまりよくなかった：△、工夫なし：-) | |
|--------------------------|----|------------------------------------|---|---|---|---|
| ① 助け合いの 促進 | 1 | 住民が助け合う(サポートし合う)機会が提供されている | 借り物競争のようなゲームを入れる | | - | |
| | 2 | 助け合いに対してさらなるモチベーションが高まる工夫がされている | 助けられた人から感謝のフィードバックを伝えられるようにする(手紙など) | | - | |
| ② ネット ワーク づくり | 1 | 多様な層と関われる/新しい出会いがある場が提供されている | 児童とサ高住の住人、またはFSST外の地域の人と一緒に施設の周りにお花を植える | | - | |
| | 2 | 参加者同士が関係性を深められるような工夫がある | 参加者が名前と顔を覚えられよう、名前を呼び合うゲームを冒頭にいれる | <ul style="list-style-type: none"> ・上級者と初級の人を組み合わせ、上級者が初心者に教えるような設計にする ・ヨガ教室の後にお茶会を実施する | ○ | オンラインなので、教えるのは一人の講師の人がやった方が会としてスムーズだった。ヨガの後のお茶会は参加者同士のおしゃべりが盛り上がり、よかった。Zoomのブレイクアウトルームで少人数にわけたことがよかった |
| | 3 | 取り組みの後の、次の発展につながる工夫がされている | シリーズものにする。参加者に次の企画に入ってもらおう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヨガサークルにはいってもらって導線をつくって、継続的に参加してもらおう | △ | 紹介したが、申し込み者が少なかった。もっと強く巻き込む仕掛けが必要なので、次は「次回も参加できる方いますか?」と呼びかける |
| ③ 主体的な 取り組みの 促進 | 1 | 住民が街の課題に関心を持ったり、意見を表出できる機会が提供されている | コロナ下における課題とその対策について、住民サークルと意見交換する | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下の健康問題やセルフケアの大事さをイベントの最初に話す | ○ | みんな関心を持って聞いてくれた。発言しやすい雰囲気もあって、健康以外の問題についてコメントしてくれる参加者がいた |
| | 2 | イベント等の企画や準備に、住民/住民団体が参画している | サークルに入っている住人に企画作りをしてもらい、講師も任せる | <ul style="list-style-type: none"> ・住民のヨガサークルに企画から関わってもらおう ・講師はサークルの人をお願いする | ◎ | 最初はしぶしぶといった感じだったが、お友達をよんだりしてくれて盛り上がった。雰囲気も住人さん主体のイベント感が強くなった |

3-4 実施内容：実施体制の構築①～ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発～

● 企画/振り返りのチェックリストが完成するまでの様子

戦略策定
実施体制の構築

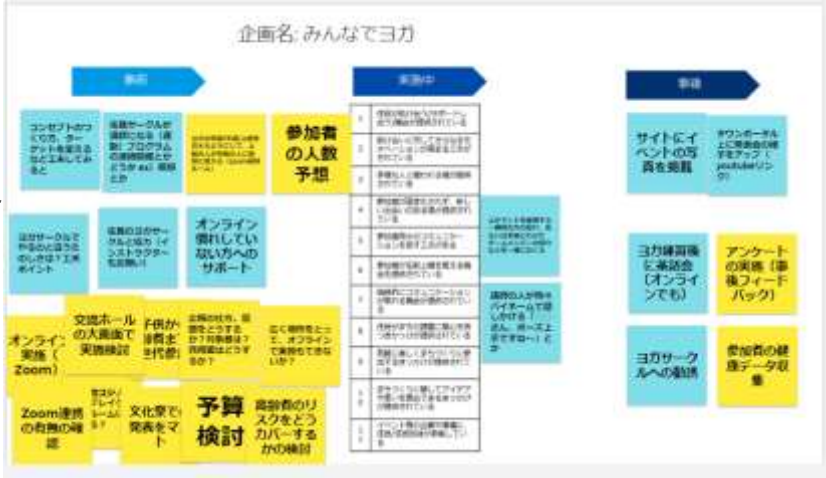
2 評価システムの共有：企画時・終了時チェック項目(たたき台)

| 項目 | 実施したい企画 / イベント・ワークショップ / 企画の振り返り・評価の目標 | 項目 | イベント / 組織づくり |
|----|--|----|--------------|
| 1 | 企画が企画書や事前メール・告知メールで伝えられている | | |
| 2 | 取組に対してききかたやサポートなどが必要な工夫がされている | | |
| 3 | 事務局と関係する情報が共有されている | | |
| 4 | 参加者が参加しやすい、新しい企画の企画が共有されている | | |
| 5 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫がされている | | |
| 6 | 参加者が企画と関係する情報を共有している | | |
| 7 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 8 | 参加者同士の関係性・協力を促す工夫が共有されている | | |
| 9 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 10 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 11 | イベント後の振り返り・評価 / 参加者の評価が実施されている | | |

© 2020 株式会社 株式会社

初案のチェックリスト。戦略図の要素を基に、事業の工夫ポイントを全11項目にまとめた。この時点では、「中々よくできていると思う」というコメントがあった。

Jamboardを使った企画作りワークショップでチェックリストの使い勝手を確認。「使ってみると項目が多く感じた」「項目があるだけだと使い方がわからない」という意見が出た。



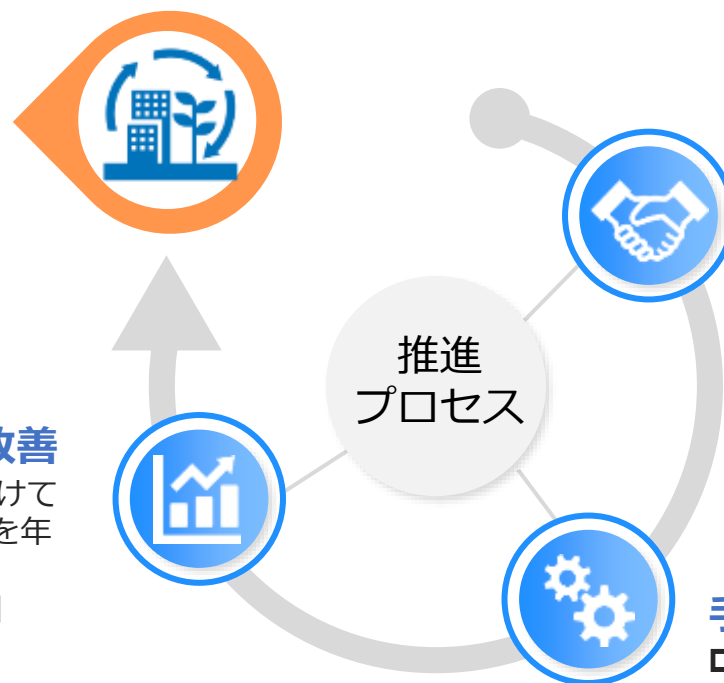
04 チェックリスト

| 項目 | 実施したい企画 / イベント・ワークショップ / 企画の振り返り・評価の目標 | 項目 | イベント / 組織づくり |
|----|--|----|--------------|
| 1 | 参加者が参加しやすい、新しい企画の企画が共有されている | | |
| 2 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 3 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 4 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 5 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 6 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 7 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 8 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 9 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 10 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |
| 11 | 参加者同士がコミュニケーションがとれる工夫が共有されている | | |

項目を7つに集約。使い方がわかるように、矢印で説明を入れるなど工夫を施した。また、担当者からも「振り返りは、◎・○・△で記入できると、今後スコア化しやすいのではないか」というアイデアがあがり、追加して、ついに完成。

推進プロセスのチェックリスト

「100年先も続く街づくり」に向けて
**WG全体として活動の品質管理
が可能になる**



全体の進捗把握と継続的な改善

「100年先も続く街づくり」の実現に向けて

- **状況把握**：取り組み全体のインパクトを年1回把握する
- **戦略見直し**：必要に応じて「シナリオ」（ロジックモデル）を随時見直す
- **手続き**についても随時見直す

基本事項の合意

- 「100年先も続く街づくり」の実施に関して
- **関係者と戦略を共有する**
 - **各社のコミットメント**：それぞれ工夫をすることを合意する
 - **実施方法**について合意する

手続き化

- **チェックリストの活用**：共通のチェックリストを活用して、各事業者が企画・実施を行う
- **情報入力**：各事業者の活動状況について共通のプラットフォームで情報をアップデートする
- **情報共有**：集まった情報を定期的にレビューし、現状をWGで確認する
- **改善や連携方法**について定期的に話し合い、実行していく

3-4 実施内容：実施体制の構築①～ビジョンと事業を紐づけるためのツール開発～

参考

関係者共有用のハンドブック ※一部抜粋

戦略策定
実施体制の構築

p.21に後述のヘルスケアサブWGでの協議では、このような資料を関係者に見せながら、コミュニティケア事業のめざすべき方向性やアクションチェンジが必要なこと等を説明した



- 01 現状と課題
- 02 100年先も続く街に向けたコミュニティ進化のシナリオ
- 03 「住民主体の街づくり」へシフトするために
- 04 チェックリスト
- 05 チェックリストの活用イメージ
- 06 推進プロセスのチェックリスト
- 07 中長期のロードマップのマネジメント



3-5 実施内容：実施体制の構築②～ヘルスケアサブWGとの戦略共有・協議～

- FSSTコミュニティケア事業の実施企業であり、学研ココファンがリーダーを務めるヘルスケアサブワーキングの参加メンバーとの連携実施に向け、作成したツールを用いながら、協議を行った。

戦略
策定

実施体制
の構築

| | |
|------|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">共通認識の組成SDGs（ビジョン達成）を意識した事業の推進に関する合意形成実施体制の構築 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none">課題意識やビジョン、戦略図の共有（第1回）方向性等に関する議論（第2回）アクションチェンジに向けた企画作成のワークショップ（第3回） |
| 実施方法 | <ul style="list-style-type: none">月に1度実施されるヘルスケアサブWGで議題の1つにあげてもらい、協議を実施（本事業期間内では3回実施）議論の取り纏めやワークショップの主導は学研ココファンが行い、パナソニックが補足説明等を担当した（ケイスリーは、2回オブザーブ参加） |
| 結果 | <ul style="list-style-type: none">ヘルスケアサブWGのメンバー企業とまちづくりにおける重要なポイントと事業の目指すべき方向性について共通認識が形成された学研ココファン主導で数回協議を実施したことで、担当者のSIMへの理解が進むと共に、事業を主導することへの不安が軽減された実証事業終了後も協議・報告の場を毎月設けることが合意され、継続して協働するための場が設置された |

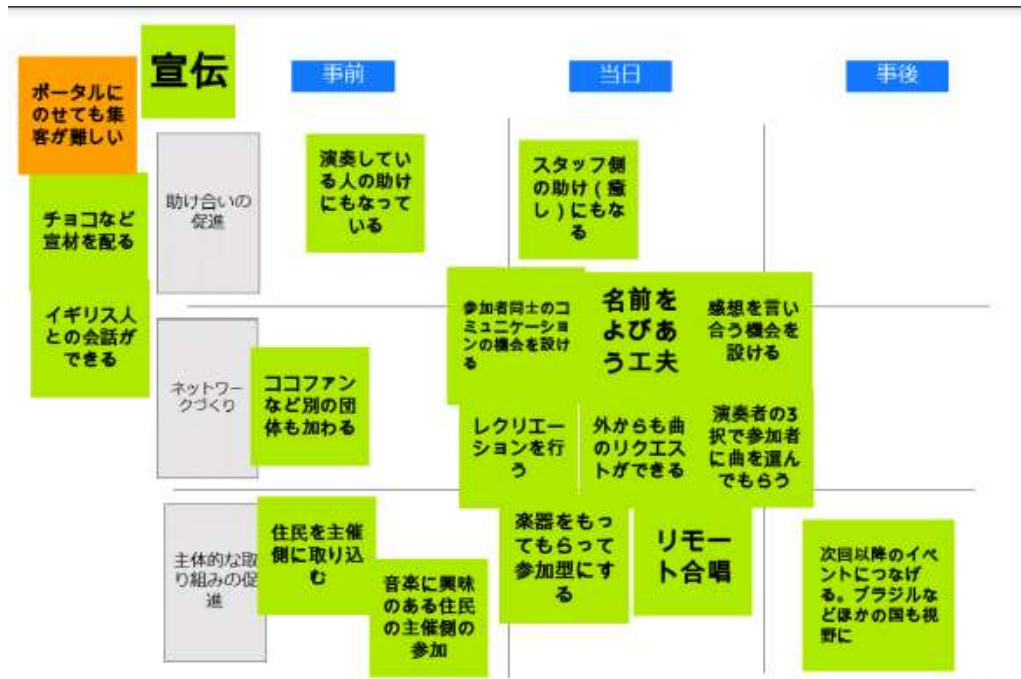
参考

学研ココファンが主導したオンラインワークショップの様子

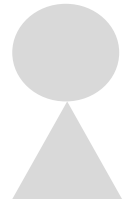
戦略
策定

実施体制
の構築

- メンバー企業のオンラインバレンタインコンサートを題材に、住民主体の街づくりに向けて、企画にどんな工夫ができるかを検討した。



先日の会議では、Jamboardを使うワークショップをやってみました。けっこう皆さんから意見が出て、目に見えて企画すべき方向がわかりSDGsの方向性を共有できたような気がします。

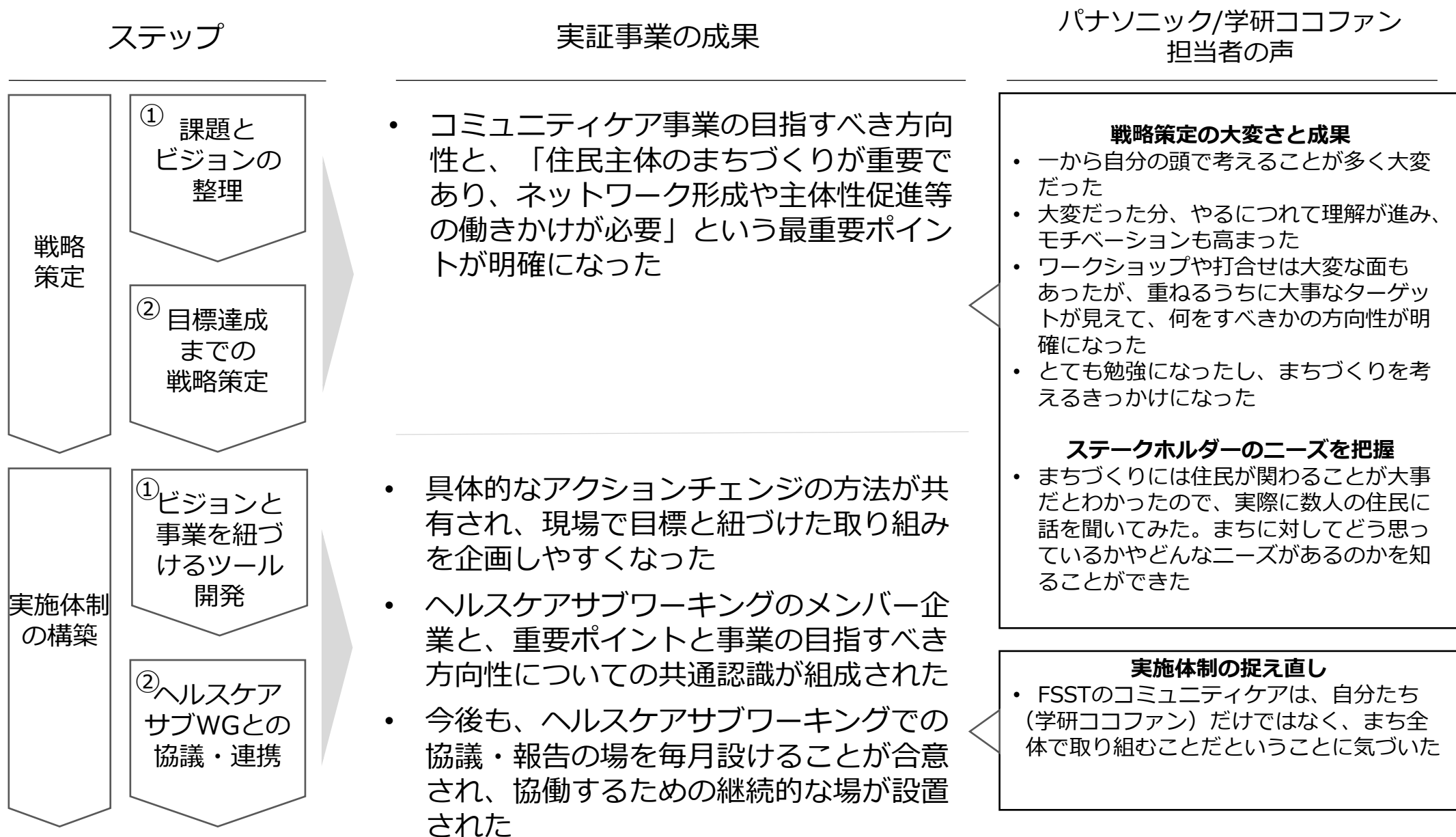


主催者（学研ココファン）の声

▲ヘルスケアサブWGでの協議（3回目）で実施されたワークショップの様子

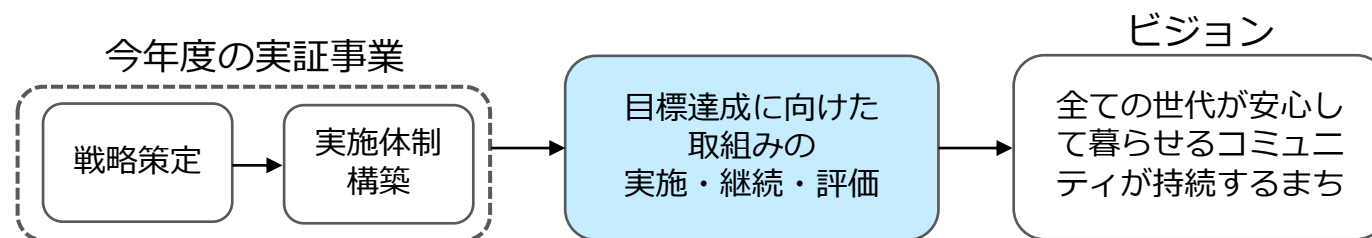
4 成果

- 実証事業を通じた成果は、以下の通りまとめられる。



5 課題と今後について

- 本実証事業を受けて、次の段階に向けての主な課題と、考えられるアクションプランは以下のとおり。



戦略策定

- 今回策定した戦略に、最重要ステークホルダーである**住民の声を反映**させていく。

実施体制の構築

- 実施体制も、まだ安定した体制が築けたわけではなく、担当替えのリスクもあるため、引き続き仕組み化を推進する必要がある。ヘルスケアサブWGのメンバーを含む現在の関係者への理解浸透を行うとともに、全ての事業企画でチェックリストを活用し、実施後にはWGの会議で報告するなど、**SIM活用を習慣化する仕組みを構築**できることが望ましい。

今後について

- 今後は**事業を実際に実施・評価し、継続して改善していくことが重要**。次のステップとして、目標達成度を測るための指標設定と、データ収集・データ分析計画が挙げられる。また、その計画を基に、年に一度はコミュニティ全体に対する評価を実施することが望ましい。



今後、実証事業を活用していくことへの思い

- 事業の実施には至っていないので、実際やったらどうなるのかという不安はあるが、検討した結果をしっかりと活用していきたい
- 住民の声なども取り入れていきたい
- 協働相手はワークをしていないので、腹落ちしてもらえるように伝えるのが難しい。自分たちのモチベーションも含めてしっかりと伝えていくことが必要であるし、意義が伝わるようなファクトやデータも必要なのではないか

| 用語 | 略称 | 意味 |
|------------------|------|--|
| アウトカム | — | 事業活動による直接的な結果がもたらす短期的・長期的な変化や成果 |
| アウトプット | — | 事業活動による直接的な結果 |
| インプット | — | 事業活動（諸活動）等を行うために使う資源（ヒト・モノ・カネ） |
| 社会的インパクト | — | 短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム |
| 社会的インパクト・マネジメント | SIM | 事業が社会や地域に与える影響を可視化し、ポジティブな影響の増加やネガティブな影響を抑制するための事業改善や経営判断を行うマネジメント手法 |
| 持続可能な開発目標 | SDGs | 2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成される。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓い、発展途上国のみならず先進国自身が取り組む普遍的なもの。 |
| ロジックモデル | LM | 事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したもの |
| SDGsインパクト・マネジメント | — | 「SDGs」と「社会的インパクト・マネジメント」を一気通貫で表現するために簡略化したもの。本事業においてのみ用いている。 |